

英 語（リスニング）

第 1 高等学校教科担当教員の意見・評価

1 前 文

令和 6 年度共通テストの「英語（リスニング）」の受験者は、本試験では 447,519 人で、受験者全体の約 98.10% に当たる。このことは、本テストの実施そのものや、問題の質や難易度、使用される言語材料が、受験者のみならず、全国の高等学校関係者及び英語教育関係者等、多方面に与える影響が非常に大きいことを意味している。なお、評価に当たっては、報告書（本試験）14 ページに記載の 8 つの観点により、総合的に検討を行った。

2 内 容・範 囲

本試験と同様に、「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」「英語表現Ⅰ」で取り扱われる範囲からの出題であり、受験者の日常的に起こりうる場面設定や将来的に社会で経験するであろう内容であった。表面的に英語を理解すること以上に、話者の意図を汲み取り、情報を整理する設問が多く問われている。また、例年どおり講義等の内容と図表を統合したりして解答する設問も見られ、受験者に大学進学までに習得しておいてほしい英語力が示されている。しかし、内容が受験者の生活に関するものに留まり、教科書に見られるような国際的な環境問題や社会問題などは見られない。関心を持たせるためにも、より幅広いトピックを取り扱ってほしい。

第 1 問 A 話題は日常生活で想定されるもので、受験者が理解しやすい適切な内容。高等学校の授業で学習する範囲内の内容になっている。本試験同様、言語を理解するだけではなく、状況と含意を汲み取る力が試されており、文脈から判断する力を要する良問である。

第 1 問 B イラストが理解を助ける役割を果たす問題。話されている場所や状況を判断する力が試されている。文章は短い、受験者は冒頭に聞こえた内容を記憶し考える必要がある。問 5 は、始めに驚きの声をあげているが、平凡なイラストであるため正答③には結び付きにくく、会話として不自然である。

第 2 問 話題は服装、スポーツ、怪我の事情説明、電話での場所説明と、身近な内容になっている。

問 8 は、就職の面接に着るシャツにどれが適切かという会話だが、解答が日本の就職活動のイメージどおりの型にはまったものであり、固定概念とは違うものであってもよいのではないかと問 11 は、道に迷った友達との電話の会話だが、スマートフォンがある現代に、このような状況は発生しにくい。道案内は小・中学校で既習事項であることから、今後取扱い方に検討を要する。

第 3 問 レインコートを選んでいる時の会話、ペットの話題、料理の話、親子、夫婦の会話、散歩に行く話など、身近で親しみやすい内容を 1 回聞いて質問に答える問題。問 15 は、母親が息子のダンス発表を出張で見に行くことができないが、後からビデオで見ると話す状況設定だが、常に子ども優先ではない親の生き方や姿勢がうかがえ、固定概念を覆すものである。

第 4 問 A 問 18～21 は健康診断で回る順番の内容。身近なトピックで、自然な英語表現で状況を理解できる良問である。問 22～25 は、交換留学先で、オリエンテーションで移動場所の指示を聞く設問。実際に、海外の大学等で見られるとても良い状況設定であるため、適切かつ良問である。

第 4 問 B 様々な種類のボランティア活動の中から、条件に合うかを考えて参加するものを考える状況設定は良いと思われるが、選択肢の設定にやや無理がある。

第 5 問 大学の農業用ロボット活用についての講義を聞き、設問に答える問題。要点を把握し、内

容をまとめる力や、図の情報と組み合わせて内容を総合的に判断する力が問われている。受験者にとっては、農業でのロボット活用の内容は、とても理解しやすいものだったと思われる。

問6問A 留学生を迎える歓迎会についての対話で、身近な良いトピックである。しかし、会話の流れから場所が掴みにくかったと思われる。問35は、双方が最終的に同意した内容はどれか、というもので良問であった。

第6問B 4人の学生が飛行機への荷物預け入れについて話している。英語は多様な英語が聞こえてきたが、誰がどの人かは理解しやすいものだったと思われる。また、今回は途中で意見を変えた人物もいなかったため、混乱はなかったのではないかと。しかし、内容については、受験者の搭乗経験の有無により、飛行機に乗る際に荷物の紛失問題が時に生じることを知らなかった可能性があり、不利であったのではないかと。問37の①Types of Luggage Problems at Airportsの図は分かりやすいと思われるが、実際は難しかったようである。

3 分量・程度

分量は昨年度と同様、大問が6問、設問が37問であった。読み上げ回数も昨年と同じく第1～2問が2回、第3～6問が1回であった。多様な英語が使用されていたが、聞き取りにくいということとはなかった。以下、準備時間をP、音声流れる時間をL、解答時間をAで示す。

第1問A（各英文11語～19語・2回読み、L：約6～8秒×2・A：約6秒）1～2文程度の短い英文を聞いて、内容に合っているものを選ぶ問題で、易しかった。

第1問B（各英文11語～18語・2回読み、L：約5～8秒×2・A：約4秒）1～2文程度の短い英文を聞いて、その英文の内容を表している絵を選ぶ問題。全体的に簡単な問題であるが、音のつながりや、キーワードとなる単語を聞き取る力が要求される。

第2問（各対話文28語～31語・各設問5語～7語・2回読み、L：約20秒×2・A：約4秒）対話と、それに続く問いを聞き、適切な絵を選ぶ問題。語彙も難しいものではなく、難易度は低い。

第3問（各対話文49語～51語・1回読み、L：約22秒・A：約8秒）2人の対話を聞いて、質問に対して適当な答えを選ぶ問題。標準的な問題である。

第4問A（問18～21＝72語・1回読み、P：約10秒・L：約32秒・A：約20秒／問22～25＝78語・1回読み、P：約18秒・L：約40秒・A：約20秒）問18～21はほぼ時系列に説明され、易しい問題である。問22～25は表の順には説明されず、単語の言い換えもあり、やや難しい。

第4問B（4人の各話者＝43語～47語・1回読み、P：約18秒・L：約84秒・A：約9秒）3つの条件に合うボランティアを選ぶ問題。4人の説明の前に、条件を理解しておき、条件を満たすかどうか○×を付けていけば難しくはない。多様な英語も含まれるが、標準的な難易度である。

第5問（英文講義＝274語・1回読み、P：約55秒・L：約148秒・A：約60秒／後半プレゼンテーション＝47語・1回読み、P：約7秒・L：24秒・A：約30秒）長めの英語の講義を聞いてワークシートを埋め、問いに答える問題。必要な情報を正確に聞き取る力が必要である。問33は、グラフから読み取れる部分と、講義の内容から判断する部分があり、難易度は高い。

第6問A（対話文全体＝159語・1回読み、P：約15秒・L：約63秒・A：約20秒）会話の最中及び会話を終えた段階での考えを問う問題があり、流れを理解することが必要。難易度は高い。

第6問B（英文全体＝223語・1回読み、P：約16秒・L：約96秒・A：約48秒）4人の会話を聞いて問いに答える問題。発話自体は聞きやすいが、難易度は高い。

4 表現・形式

第1問A 問1は、instead ofが理解できなかった可能性がある。また、問4は「盗む」という意

味でのtookが分からないと正解できない。どの選択肢も、語彙を言い換えたり、英文の内容を掘り下げて理解させる表現をしたりしているので、良問である。

第1問B 問5は big asをbiggerと聞き違い、かつ Wow! や Nice! などのリアクションが不自然で、①を選ぶ可能性がある。問6はwithout any stripes or circlesが示す「どちらも無い」という全体否定が理解できないかもしれない。イラストのwalletは、全て同じ形にしても良い。

第2問 問8はcollarをcolorと聞き違える可能性がある。内容に関しては、就職面接に行く＝襟付きのシャツという固定概念に縛られず、もっと絵に変化を持たせて、対話もっと工夫した方がよいのではないかと。問10は、won't をwant toと聞き間違えた生徒は④を選んでしまうだろう。

第3問 問12は、代名詞onesとoneが何を指しているかを聞き取ることがポイント。問13はplayfulのみ、または消去法で正解②を選ぶ可能性がある。選択肢の設定と流れる英文が合致しにくいものがあつた。問14は、not on pizzaが聞き取れず、②を選ぶ可能性がある。問16は、1回のリスニングで位置関係を把握するのが難しく、解答が分散すると思われる。問17は、I'd rather notの部分と代名詞oneの聞き取りができなかったと思われる。また「急ぎたくない」を30分後のバスには乗りたくない、と考えた可能性もある。

第4問A 問18～21は、ほぼ時系列で英語が流れてくるので、簡単な問題である。a vision test, get your eyes tested, get your height and weight measured等の自然な表現が使われている。問22～25は、必要な情報を聞き取る場面として、良問である。literatureという単語になじみがあまりないかもしれないが、historyが聞き取れれば問題なく解答できる。専攻の言い換えも、medical→medicineのみのため、容易に理解できたと思われる。

第4問B 様々な国籍の4人の会話だが、聞き取りにくいことはない。②の人物のplaygroundは分かりにくいのでgroundで良いのではないかと。問26では、「平日と週末」「朝と夕方」のシフトを選ぶ④が正答になっている。他の選択肢は明確な時間帯や活動場所を言及しているのに対して、④はそれが曖昧で、最終的には消去法しかなくなる。一度しか聞けないリスニングで判断させる際には、このタイプの選択肢を正答にするのは避けた方がよいのではないかと。

第5問 農業用ロボットに関する講義を聞いて質問に答える問題。全体的にロボットを肯定的に捉えていることを押さえれば、正しい選択肢を選びやすい。問28～31のワークシートは見やすく、選択肢もすべて副詞で統一されているので、選びやすい。全体のレベル、選択肢の表記など、良問だと考える。問33については、この問題に関する講義の続きの部分で、内容に合っているものを選ぶ問題。グラフを見て解答するための情報をもう少し加えた方がよいのではないかと。令和7年度大学入学共通テスト試作問題に見られる会話形式での出題に期待したい。

第6問A 留学生の歓迎会について2人の会話を聞いて質問に答える問題。問34については正解①のthe studentsが特定できなかった可能性がある。また④はon campusという表現が認識できず、また話の流れが掴めない受験者が選んだかもしれない。問35については正解①のoff campusと流れる英文outsideが結び付かなかったかもしれない。また、会話後半のtake some food and drinksから、選択肢にorder food and drinksと記載のある②を誤って選択した可能性がある。

第6問B 飛行機の荷物預け入れについて4人の会話を聞き、問いに答える問題。空港で荷物を預けることや、ロストバゲージという状況はもちろん、checked luggageとcarry-on baggageの表現になじみがなく、状況を把握するのが難しい上に、入り組んで発話される4人の考えを理解することが難しかった受験者もいたのではないだろうか。問36は、該当者を選ぶ形式で、4人の話者を識別することがより重要になった。問37では、予めBarryが話した内容に沿った図を選ぶという設問を、受験者は事前に理解した上で会話を聞くことが求められていた。

5 ま と め（総括的な評価）

身近な場面設定や、実生活でありそうな状況設定が多く出題されており、1人の発話、2人による対話、4人による説明、または討論等、形式も様々である。アメリカ英語、イギリス英語等のネイティブスピーカーに加え、英語を母語としない話者の音声もあり、聞き分けもしやすい。選択肢は工夫されていて、聞いた言葉をそのまま読み取るのではなく、言い換えられているものがほとんどで、内容を素早く把握し、該当するものを選ぶようになっている。さらに、状況に応じて含意を汲み取り理解する力が求められ、思考力・判断力・表現力等が必要とされる。一方、図から読み取る問題では、言い換えを読み取る必要がないためか、正答率は高くなっている。高等学校における日頃の授業でも、やり取りをする場面はもちろん、英文を聞き、リテリングの場面や、相手の意見に即座に反応するディスカッションやディベート等の活動を授業に取り入れていくことが必要である。

(1) 本試験との比較

共通テストにおいては、難易度や出題量、出題形式の層が本試験と追・再試験との間で最小限であることが望ましい。総合的に見ても、この点においては、本試験と追・再試験のいずれの受験者においても有利・不利な状況が生じるような大きな相違点はなく、バランスの取れた問題だった。

(2) 形式等の特徴

実施時間は30分、1問あたりの配点は1～4点の幅があり、読む回数は2回読み（第1問・第2問）と1回読み（第3問～第6問）に分かれ、満点は100点であった。本テストでは「リーディング」と「リスニング」がともに100点満点で構成されていたことから、より英語4技能のバランスを意識したものであると言える。流れてくる英文の長さ、選択肢の長さや解答時間も、受験者の理解力を測り、識別するのに適切なものであると言える。設問や場面設定の指示が日本語で記載されており、測る力を「聞く力」に絞るための措置として有効である。読む回数については、試験前半における2回読みは、受験者が試験のリスニングに慣れるのに必要な配慮であり、1日目の最終科目であることを考えると、適当とも考えられる。しかし、聞く内容や正答率から判断すると、第1問B及び第2問の絵を見て選ぶ問題は、読む回数を1回にすることも考えられる。また、他の外部試験のように、写真を見て説明を選ぶ問題の採用も考えられる。

(3) 学習指導要領との整合性

今回の試験は平成21年告示の学習指導要領に基づくものであったが、平成30年告示の学習指導要領とも重なる、重要なポイントがカバーされているような問題も多く見られた。今後も、「日常的话题」同様、「社会的な話題」について更に取り上げることで、生徒の社会生活や日常生活の中から課題を発見し解決方法を構想する場面設定の増加を希望する。また、現在、教科書で取り上げられるトピックは、Society5.0、生成AI、LGBTQ、環境問題、移民問題等、多岐にわたっている。共通テストの問題として扱うには様々な制約があるであろうが、授業で取り扱っている生徒が興味を持つきっかけになるトピックを共通テストにおいても取り上げることで、授業におけるディスカッションやディベート等への活用の度合いも増えていくことが期待できる。英語話者については、アメリカ英語中心ではあるが、イギリス英語や英語を母語としない英語話者の音声もあり、グローバル化にも対応している。このことは大いに評価できる。引き続き、様々な英語が国際的に広くコミュニケーションの手段として使われている実態を反映し、アメリカ英語に偏重することなく幅広い英語を取り扱っての問題作成を継続していただきたい。

(4) 高等学校の授業改善への影響

本テストは、実生活によくある場面設定のもと、聞こえてくる英語の内容や話者の意図、話の流れなどを適切に聞き取る力が試されている。音声で流れてくるものとは違う表現で選択肢が作られているので、授業においても、簡単な英語でのリテリングやサマリーを通して、言い換えの練習が必要となる。この力はテストのためだけでなく、実際に英語でコミュニケーションをとる際に必要なスキルでもある。聞いて理解するだけではなく、リーディングにおけるスキミング的な力、流された英語の表現が言い換えられた英文を判断する語彙力、講義を聞いてメモを取る力、英語で説明された内容を図としてイメージする力等が必要となる。

内容に関しては、様々な分野から出題されているので、英語以外の教科や社会問題への興味を大切にすることと、全ての知識が英語につながることを生徒に示したい。英語の授業においても、教科書で取り上げられる社会的、国際的なトピックに合わせて、総合的な探究の時間の設定のように、教科横断的な内容の授業を行うこともこれからますます必要となってくるであろう。加えて、日常会話はもちろん、スピーチやディベート、プレゼンテーションなど英語を手段としてコミュニケーションをとる授業展開も並行して行っていく必要がある。また、ディスカッションやディベートで、相手の発言を聞き、即座に対応する活動も有効だろう。

毎年行われる本テストは、これからの英語教育がどのように進むべきかを示す道標であり、問題内容も変わっていくべきだと思う。小学校高学年での英語の教科化に伴い、英語に慣れ親しんだ児童が中学校、高等学校に進むことを念頭に置き、言語活動を中心とした指導を継続することが必須となっていることを、今一度高等学校教科担当教員も自覚し、実際の指導に生かす必要がある。また、この道標を軸にして、授業改善に努めていかねばならない。

(5) 要望・提案

報告書（本試験）に記載。